

あなたの入会を心から呼びかけます

日本科学者会議 入会案内

The Japan Scientists' Association Enrollment Guidance



若者へ。
今、日本は岐路にある！

代表幹事 **益川 敏英**

名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構機構長
2008年ノーベル物理学賞受賞

私は若い時から組合活動や社会活動に走り回ってきた人間なので、(研究第一で社会の問題に疎い)そんな彼らを見るたびにお尻をたたっているわけですが、もっと市民との接点を増やしていかなければいけないと思っています。そういう場を意識的に作っていかなくてははいけません。

我々の課題は、今の社会をどう守っていくかということ。子供や孫が安心して暮らせる社会をどう残すかということ。そうした問題を議論し合う場に科学者がいれば、その科学的知識を活用して、一般人とは違うコントリビューション(貢献)できると思っています。科学者を含め、生活者がそれぞれの立場で知恵を出し合うというのはそういうことでしょうか。そんな経験をしていけば、科学者も科学バカにならずに済むし、生活者としての視点も養えます。

その意味で、科学者に責任を押し付けるのではなく彼らを生活者として育てる工夫が大事なのだと思います。「科学者である前に人間たれ」(恩師坂田昌一先生のことば)の精神は、そうした人々との交流の中で形成されていくのではないのでしょうか。

この世の中で生きていく限り、私たちは社会とのつながりを持たざるを得ないのです。あるいは秘密裏に何が進行しているのか、それに耳をすませなければいけません。その中で日本が平和に向かっているのか、逆の方向に進んでいるのか、科学者も含めて目を凝らして見てほしいと思います。

「科学者には現象の背後に潜む本質を見抜く英知がなければならない」と言う坂田先生の言葉は、今も非常に重いものですが、理性を上手に働かせることができれば、人類は今後100年だって200年だって、戦争せずにはいられるはず。平和運動の先頭に立つつもりはないと言いながら、私が何十年もいろんな運動に首を突っ込んできたのは、そんな未来を信じたいからだと思っています。(『科学者は戦争で何をしたか』集英社新書より)

日本科学者会議は、日本の科学の発展とそれを取り巻く環境のことを真剣に議論しています。このことは、月刊誌『日本の科学者』に掲載されています。今、日本が大事な岐路にあるときに、日本の進むべき道、日本の科学の未来について、日本科学者会議で皆と一緒に考えてみませんか。

科学を人類の進歩に 役立たせる力に！

代表幹事 **伊藤 セツ**

昭和女子大学名誉教授



私は1960年代半ば、大学院生協議会の活動の中で、広範な分野の院生と交流しながら青春時代を送りました。「われわれは若き研究者。未来の科学を担うもの」と自負しつつも、皆、生活は苦しく、奨学金やアルバイト問題対策の委員会活動もやっていました。丁度そのような時「日本科学者会議」(JSA)が結成されたのです。「待ってました」とばかり、多くの院生が入会しました。

今、院生を取り巻く状況は当時とは様変わり、異分野の院生との交流は減り、「業績」をあげることに追われ、当面の就職口にありつくのも至難の技です。分野を超えた交流の余裕などないといわれそうですが、学際的な視点は、個別の研究の発展にとっても不可欠なものと思いませんか。

例えば、社会科学(社会政策とくにジェンダー視点で)を専攻する私も、異なる科学諸分野の動向を全面的に伝えるJSAの月刊誌に触発されることが多々あります。

ところで科学者って誰?そこです!

「JSA会則」では、科学に携わる者を、「研究者、教育者、技術者、医師、弁護士、大学院生など」(第5条)、と

例示しています。そして、科学を発展させ、科学者の責任を果たす責任と自覚をもっていれば、専門、職場の種類を問わず、「世界観や研究方法のちがいをこえて」(前文)も会員として迎え入れています。あなたもこれに当てはまるのではないのでしょうか。

私は、勤務先での学生・院生の教育、大学運営、研究に40年携わってきましたが、定年後も、自分の研究の継続と、市民運動参加を結び付けて生活しています。そのなかで思うことがあります。

それは市民運動や市民科学運動を担っている方々で、これまで各種教育に携わった豊かな経験もお持ちの方が多くことです。そういう方々にも、JSAは開かれており、入会をお勧めしたいのです。

JSAは、そのような蓄積あるみなさんに、人類史に科学を通じて貢献する意味ある時間を提供します。いろいろな方の科学運動への参加が、「科学の反社会的利用に反対し、科学を人類の進歩に役立たせる」(第2条(4))力となるのです。

みなさんの入会を心からお待ちしています。

日本科学者会議について

日本科学者会議(JSA)は総合学術団体です。人文科学・社会科学・自然科学の研究者だけでなく、技術者、医師、教育者、市民も会員として参加しています。

Q 会員になると?

- ・専門分野を超えて交流したり研究会を組織することにより、広がりのある研究を進めることができます。
- ・機関誌「日本の科学者」が毎月お手元に届きます。購読料は会費に含まれるのでお得です。
- ・院生会員は院生向けの交流会・勉強会に参加できます。
- ・大学院生には、割引された院生会費が適用されます。

Q 会員になれるのはどんな人?

会則をみとめ所定の会費をおさめる科学に携わる者を会員とします。^{*}(会則第5条)
科学を専門としなくても、科学の発展や科学の社会的役割に関心を持つ皆さんの入会を歓迎します。
^{*}研究者、教育者、技術者、医師、弁護士、大学院生など

